八尾市指定文化財 安中新田会所跡 旧植田家住宅 ニューズレター

旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

NEWS LETTER
発行部数 3,000 部
Vol.25
2015年7月発行

企画展

植田家と新田開発

旧大和川をあるく

ぶらり長瀬川~志紀・柏原 編~

連載コラム

「落穂拾い - 今東光の薫風 -（十九）」

http://kyu-uedakejutaku.jp/

展示のご案内

企画展

「くらしを彩る植田家の陶磁器」

2015年7月16日(木)～9月27日(日)

植田家に伝わる”色々”な陶磁器を一堂に展示。会期中、一部展示替えあり。

※休館日は P15 をご覧ください

次回展示

通 常 展「大和川付け替え関連展示」

10月1日(木)～10月28日(水)

NEWS LETTER
旧植田家だより
KYU-UEDAKE INFORMATION
Volume 25

Contents

4 企画展
植田家と新田開発

6 八尾再発見！市史にみる八尾

7 ボランティアガイド養成講座（第４期）

8 旧大和川をあるく
ぶらり長瀬川～ 志紀・柏原 編 ～

10 三会所だより（5）

11 植松灯籠の日＆夜間開館

12 なにわの伝統野菜栽培日記 ㉕

13 植松のまち・ひと ー第16回ー

14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 -（十九）」

15 旧植田家住宅のご案内

表紙写真

植松灯籠の日

2015年5月9日（土）に開催した旧植田家住宅の庭の灯籠に灯りを灯すイベント「植松灯籠の日」。来場者は普段と違った庭の景色と主屋の窓に現われた影絵を楽しんだ。詳細は本誌 11 頁に掲載。

※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。
http://kyu-uedakejutaku.jp

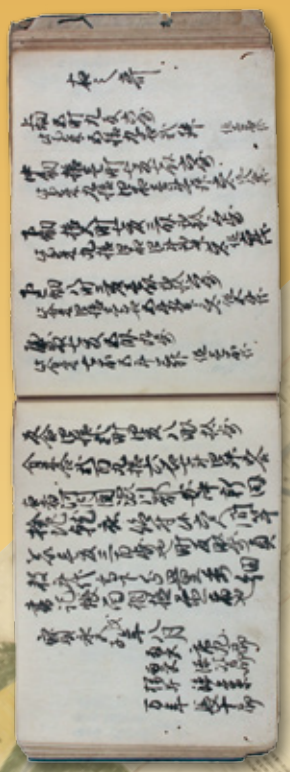
平成26年度 市指定文化財

最古の

「安中新田検地帳」を初公開！

平成27年度企画展

植田家と新田開発



宝永五年安中新田検地帳写并覚書（1708）

享保六年安中新田検地帳写（1721）

背景：安中新田分間絵図（1711）

企画展「植田家と新田開発」

平成26年度（平成27年）3月、八尾市では新たに2件の文化財が「市指定文化財」に指定されました。1件は、考古資料の『高安千塚古墳群　服部川支群　伝森田山古墳出土圭頭大刀・耳環・須恵器』。そしてもう1件が、安中新田会所跡旧植田家住宅所蔵の古文書『安中新田検地帳』（宝永五年安中新田検地帳写并覚書・享保六年安中新田検地帳写）です。この指定を受け、旧植田家住宅では、6月4日（木）～7月12日（日）の期間中、企画展「植田家と新田開発」を開催し、市指定文化財の古文書2点のほか、植田家と安中新田に関わる古文書複数点を展示しました。

「安中新田分間絵図」

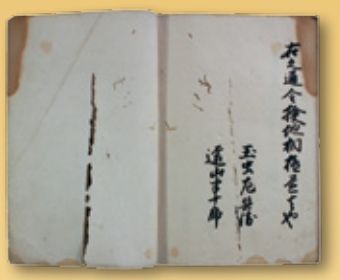
まず今回の企画展では、展示室の床面に複製が展示されている「安中新田分間絵図」について詳しく取り上げ、その内容について写真や図で解説を行ないました。この「分間絵図」も、何を隠そう平成21年に八尾市の文化財指定を受けており、この絵図の発見によって、旧植田家の建物が安中新

市指定文化財の「指定書」を展示

「安中新田検地帳」を初公開！

巨大な「安中新田分間絵図」を図解

展示室全体



（倍率５）　トンネル状に虫食い穴をあけるシバンムシ

初代植田林蔵について書かれた古文書

加賀屋新田に関する古文書も展示

田の会所跡であることが判明し、平成18年（２００６）６月に建造物と場所が八尾市指定文化財ならびに「史跡」に指定されました。ちなみに絵図は、正徳元年（１７１１）に作成されたもので、新田開発からおよそ７年後の安中新田の状況が分かる資料となっています。

「安中新田検地帳」

今回の展示の目玉であった「安中新田検地帳」は、先述の２点から成っており、「宝永５年」の検地帳は、新田開発後に初めて行なわれた検地の記録で、市内に残る新田の検地帳の中でも最も古い資料です。また「享保６年」の検地帳は、その13年後のもので、新田開発の状況や新田そのものの価値（等級）が上昇していることも分かり、どちらの資料もその当時の歴史を今に伝える貴重な資料であることを再認識させられました。

また展示では「古文書は難しくて分からん！」という方でも興味をもってもらおうと、〝古文書を味わう〟資料害虫シバンムシ君にも登場してもらいました。

（旧植田家住宅 学芸員　安藤 亮）

八尾再発見！市史に見る八尾

6月20日（土）、旧植田家住宅では「八尾再発見！市史にみる八尾」の講座が行われました。企画「八尾再発見！」は、これまで「文学に見る八尾」、「映像にみる八尾」として実施していましたが、今年からは「〇〇（まるまる）にみる八尾」として様々なジャンルで八尾を発見する企画として生まれ変わりました。この「〇〇」に当てはまるものとして、今回は新版の完成に向けて現在作業が進行中の八尾市の「市史（しし）」について、講師の尾崎良史さん（八尾市史編纂室、八尾市文化財調査研究会）に詳しくお話を聞かせていただきました。

市史を分かりやすく解説する尾崎さん

これまで刊行された八尾市史

まずは「市史」という言葉ですが、耳馴染みのある人にはピンときますが、実はこの言葉は辞書には無い言葉で、いわゆる自治体が刊行する「自治体史」の一つ、つまり『八尾市史』は八尾市という自治体の歴史書だといいます。歴史書としては中国の昔のものがモデルとなっているそうです。『八尾市史』編纂以前は、『大阪府全志』（大正2）や『中河内群誌』（大正12）など広域なものや、あるいは各『村誌』に掲載された程度のものでしたが、市政10周年事業として昭和33年に『八尾市史』（記述編＝本文編）が刊行、それに続いて史料編も2年後に刊行され（講座ではこれを第1期の『八尾市史』と呼称）、こうして『八尾市史』の歴史が始まりました。

第2期の市史編纂は昭和43年に始まり、昭和63年『増補版 八尾市史（前近代編）本文編』までに『八尾市史』は次々と刊行されていきました。それ以降は現在まで刊行されていませんが、このたび平成22年に第3期となる『新版 八尾市史』の編纂が決定し、平成34年の完成を目標に現在その作業が着々と進められているそうです。その中身も気になりますが、本講座では第1期の『八尾市史』をもとに、八尾市の歴史や特徴、資料の正当性などを、尾崎さんの綿密な考察と分析を交え、たっぷりとお話して頂きました。

本講座では、市史を通して八尾の姿を発見でき、またその歴史を積み上げてきた人びとの姿も感じることができました。また新たな八尾の発見につながる『新版八尾市史』の完成を心待ちにしたいと思います。

（旧植田家住宅　安藤 亮）

学芸員のつぶやき

ボランティアガイド養成講座（第4期）

第１回「ガイダンス」

第２回「植田家の建造物」

第３回「昔の道具」

毎年五月から八月にかけて開講している「ボランティアガイド養成講座」は、今年で第四回目を迎えるということで、今回の受講生はボランティアガイドに登録されれば四期生ということになります。主に学校園と一般の団体見学を対象に旧植田家住宅の案内をしてもらっているボランティアガイドの皆さんですが、最近では、出前授業やイベントのスタッフとしても活動の幅を広げていただいています。

さて、今年の講座は、受講生が定員五名に対して二名と、第一期と同じ少人数での開講となりました。受講生のお二人とも各所でボランティアの経験もあり、新しいことを学んで様々なことに関わる機会とされています。全四回にわたる講座を終えて、無事ボランティアガイド誕生となるでしょうか。

◎第1回（5月20日）

毎年、プログラムとして最初に行なっているのが、自己紹介です。受講生同士の交流も兼ねてですが、それぞれの想いを伝えるガイドとしては大切な時間です。それが終わると、早速旧植田家住宅の中を見学してもらいました。お客さんの立場として話を聞いてもらう機会としています。植田家住宅では基本となる大和川付替えと新田開発の知識も欠かせませんが、短期間で覚えることの多い養成講座なので、気長に参加してもらえればと思います。

◎第2回（6月17日）

第二回の講座では、毎年プロの建築家に講座をお願いしていましたが、今年は諸事情により当施設学芸員が建物についてお話をしました。実際に建物を見学しながらのスタイルは例年通りで、プロには及びませんが、日頃のガイドで学んだことをお伝えできたかと思います。また植田家に関する基本的な知識も習得してもらえるよう、第二回では特に資料を充実させました。

◎第3回（7月8日）

いよいよ後半戦となる第三回は、予定の日程を繰り上げ、すこし早く実施しました。学校園の見学に関する内容で、より実感を持って講座に取り組んでいただけました。さらに次回は、いよいよ修了検定が待っています。これまでのおさらいとして第一回からの内容をもう一度確認し、準備をしました。受講生の皆さんがんばってください。

（旧植田家住宅 学芸員　安藤 亮）

9. 道標
柏原の今町の家並の北端に位置し、奈良街道と信貴山参詣道の分岐点に立つ。

10. 柏原神社
創建年代不詳。柏原村要新六（かなめしんろく）私邸に鎮座のものを明治13年に現在地へ移転。明治40年に若松神社を合祀・改称し、同年、志紀村の稲荷神社を合祀している。

11. 寺田家住宅
登録有形文化財。江戸時代に庄屋をつとめ、北条屋の屋号で油粕問屋や柏原舟を営業。

12. 三田家住宅
重要文化財。屋号を大文字屋と称し、干鰯や油粕などを扱う肥料商を営み、船仲間や地主として栄えた。建物の表側は奈良街道に面し、裏側は了意川に面しており、柏原船の荷物を直接敷地内に運べる。

13. 旧大和川堤防跡
旧大和川の堤防跡の石垣。

14. 柏原舟ふなだまり跡（公園）
寛永 13 年から始まった柏原船は、4 年後には 70 隻まで増え、明治頃まで柏原ー大阪間を運航し、物資の運搬・集散で栄えた。

15. 柏原黒田神社
旧大和川堤防上に位置する。創建年代不詳。もとは塩殿神社と呼ばれ、海運・交通安全の神として塩土老翁（しおつちのおじ）を祀っていた。

16. JR 柏原駅
明治 22 年開業。平成 19 年に現在の橋上駅舎となる。
※写真は駅前ロータリーの様子

17. 南栄橋
柏原駅の南東に位置。橋の東側にかつて肥料工場があり、工場専用の線路（引込み線）の名残で、橋が斜めに架かる。

18. 二・三番樋の合流地点
大和川から流れる二本の川（長瀬川）の水が合流する地点。

19・20. レンガ造の跨道橋
近鉄道明寺線のレンガ造の跨道橋。

21. 春日神社
創建年代不詳。戦後に黒田神社に合祀され、現在は社はなく公園となっている

22. 天誅組の碑
文久 3 年に孝明天皇の大和行幸に先立ち、大和五條の代官所を襲撃し、倒幕の旗をあげた天誅組が策を練ったとされる料理旅館「きぬ吉」が、かつてこの付近にあった。

23. 青地樋
平野川の取水口。近くには「神奴染工場」がある。

24. レンガ造の跨道橋

25. 三番樋
長瀬川・玉串川の取水口。

26. 築留二番樋
長瀬川・玉串川の取水口。明治 21 年のレンガ造の樋門は、鉄道トンネルのようなアーチの馬蹄形をしている。登録有形文化財。

27. 大和川治水記念公園
大和川付け替えに尽力した中甚兵衛の像や明治 18 年の水害碑、同年間の治水功労者たちの顕彰碑などが立ち並ぶ。

旧大和川をあるく
ぶらり長瀬川
～志紀・柏原 編～

宝永元年（1704）の大和川付け替え後から現在に至るまで新田開発された旧川筋には歴史ある史跡や名勝、名所がたくさん残されています。このまちあるきでは、古いものから新しいものまで様々な魅力あるスポットを発掘します。

2015年4月12日（日）、天候にも恵まれ、12名の参加者とともに、旧大和川から新大和川を目指す「ぶらり長瀬川～志紀・柏原編～」を実施しました。毎回常連の参加者も増え、それぞれ違った興味や関心があり、様々にまちあるきを楽しみました。

今回は特に大和川付け替えの歴史だけでなく、地理や建物、墓地、鉄道などに関するスポットが多く、得意分野を持つ参加者が交代でガイドをする場面もありました。予定コースを約3時間でめぐり、八尾と柏原のどちらも堪能することができたまちあるきでした。

1. JR志紀駅
明治42年開業。昭和22年に一旦休止し、昭和36年営業を再開した。

2. レンガ造の橋脚
昭和31年造。

3. 万葉歌碑
八尾唯一の万葉集に詠われた場所。「真鉋持 弓削河原之 埋木之 不可顕 事爾不有君」（巻7・1385 読人知らず）。
この付近は、旧大和川の河川敷にあたり弓削の河原と呼ばれた。二俣から分かれた長瀬川（付け替え前は久宝寺川）の河原だったのだろう。

4. 西村市郎右衛門の碑
大正5年建立。大和川付け替え後、志紀郡の村々の水不足を解消し、処刑されたという西村市郎右衛門の碑。

5. 二俣
長瀬川と玉串川の分岐点。

6. 木製水車
岡村製油株式会社のモニュメント。

7. レトロな銭湯
外壁にレンガを使用した銭湯「桜湯」。数年前に廃業。

8. 今町墓地
旧大和川の左岸堤防にあたる。

三会所だより(5)

加賀屋

「明霞亭」というのは加賀屋新田会所跡（加賀屋緑地）で最も高い場所に位置している四阿風の「旧茶室」である。加賀屋新田会所は加賀屋甚兵衛が新田の管理のために会所兼別邸として宝暦四年（一七五四）に建てたものである。甚兵衛は風流な文化人で、建物としては書院のほか茶室を三つもそなえた数奇屋風の「鳳鳴亭」と小堀遠州風の築山林泉式の庭園を創った。紀州の殿様・多くの文化人など多くの来客を惹きつけた。

庭園は、敷地の南側に心字池を囲むように配置され、「明霞亭」はその中央部の築山の頂上に配置された。その比高は池からみて四メートル余である。「旧」茶室といったのは、太平洋戦争末期の昭和二〇年（一九四五）に空襲で消失したからで、現在、焼け焦げた階段と四本の石柱が残っており、その後につくられた四阿のベンチに往年の茶室をしのばせる写真が飾られている。

この明霞亭からは会所の全景が俯瞰でき、将に回遊式庭園の佇まいを満喫できる最高のスポットである。北側には、その建物の形が鳳に見えることから名付けられた「鳳鳴亭」、その土台には清水寺の舞台を彷彿させる舞台づくりの柱、白壁の「土蔵」、書院が見える。東・南側には池を取り巻き、緑鮮やかな木々がうっそうと茂っている。その中央をどっしりと構えているのはイブキの木。松の木・ハゼの木もその傍らをかためている。

今は会所の周辺部は住宅・マンションに取り囲まれている。が、なぜか、この四阿に座し、吹き抜ける風の音に、ふと往時の茅渟海岸・淡路の島影・六甲の山脈が彷彿させられる。

（住之江の町案内ボランティア副会長　實清隆）

●加賀屋緑地（加賀屋新田会所）

場　所：住之江区南加賀屋4-8
交　通：地下鉄「住之江公園」駅下車徒歩15分・市バス「南加賀屋四丁目」下車徒歩5分
休園日：月曜日、年末年始
開　園：10時～16時30分
入場料：無料
問合せ：06-6683-8151（管理事務所）

庭園内の築山頂上に配置された往年の「明霞亭」

現在の「明霞亭」（旧茶室）

常夜燈

2015.5.9

植松灯籠の日&夜間開館

その正体は…!?

主屋二階の窓に映る影絵

5月9日（土）の夕暮れ時、昨年の5月と11月にも実施した「植松灯籠の日」を開催しました。夜間開館して行なわれるこのイベントは、午後5時の閉館後、再び午後6時30分に開門すると同時に始まります。その頃にはすっかり日も落ちて、ムードも最高…とはいかず、灯籠の点灯予定時刻の午後7時を過ぎても、まだ少し明るさが残っていました。

古今東西、全国各地で「光」のイベントが流行る中、旧植田家住宅の庭の灯籠の灯りはとても穏やかで、夜の建物の雰囲気にぴったりと合っています。灯籠も数は決して多くはありませんが、形は様々で、特にかつてこの植松地域の路上に立って夜道を照らしていた金比羅灯籠が、植田家の庭で特等席を与えられて目立っています。また、灯りも本物のろうそく（ただし大きな灯籠を含めて2基にのみ）を使用し、自然な火の光がいっそう雰囲気をもり立てます。

さて、この「植松灯籠の日」のもう一つのお楽しみといえば、主屋の2階の窓に映る「影絵」。辺りが暗くなった頃、建物の明るい窓に何やら怪しい複数の影が現れました。ちなみに前回は、「たぬきの糸車」をテーマにした影絵で、くるくる回る糸車（スタッフが交代で操作）とそれをじっと見つめるたぬきの影が可愛く印象的でした。そして、なぜか動くキツツキの姿も。

今回見ることのできたのは「般若、みみずく、獅子、金魚、たいこもち、カエル、へび、かたつむり」の8つの影。一見すると何のことか分かりませんが、実はこれ、江戸時代の浮世絵師・歌川国芳の作品を再現したものでした。仕掛け絵（寄せ絵）や戯画などでも知られる国芳の影絵のシリーズで、これらの影の正体は猫、狸、弁慶、七福神たちです。主屋の2階へ上がってみると、実際にそれらの姿がはっきりと確認できました。

イベントはおよそ2時間と短い間でしたが、ご近所の方々をはじめ、口コミで遠方から来た人たちも多く参加し、静かに盛り上がりました。次回も11月に開催を予定。普段みることのできない夜間の旧植田家住宅を見学することができます。

（旧植田家住宅スタッフ）

次回「植松灯籠の日」は11月7日（土）に開催予定！

なにわの伝統野菜 栽培日記

No.25

枝豆の収穫ッ！

穫れたての枝豆

【枝豆の収穫】

どんよりとした雲が広がる梅雨時期にも、スクスク成長している植田家の枝豆。梅雨の中休みとなった週末、待ちに待った収穫の日が来た。枝豆の収穫は人気のイベント。実入りは八分目とイマイチではあるが、味はイケてるはず！何よりこれ以上置いておくと虫に先を越されてしまう。

枝豆は、未熟な「大豆」を収穫したもの。意外に知らない方が多いことに驚いた。古い歴史がある枝豆。江戸時代には、夏になると路上に枝豆売りの姿も多かったそう。現在のように莢（さや）を外した物ではなく、枝付きのまま茹（ゆ）でられたものが売られ、当時はそのまま持って食べ歩くなど、ファーストフード的な存在。この状態の物を「枝付き豆」または、「枝成り豆」と呼び、それが名前の由来となったそうだ。

現在、枝豆専用の品種は四〇〇種以上。八尾の特産品である枝豆の品種も数種類あるようで「大雪みどり」や「えぞみどり」が主流らしい。今年の植田家の品種は、そのまんま「**おいしい枝豆**」。解りやすいです（笑）

収穫後は一日で旨み成分のアミノ酸や糖が半減してしまう枝豆。だから鮮度が一番重要！なので植田家で収穫後、すぐに茹でたもの（それもカマドで♪）の甘さと香りは、ひとしお。「おいしい枝豆」でなくても、おいしい枝豆な訳です。毎回、参加率の高い畑メンバーですが、それぞれ育てたものを仲良く分け合って、おいしく試食した。

枝豆をみんなで分け分け♪

【夏野菜】

その子どもたちが五月に植えた夏野菜は、勝間南瓜（こつまなんきん）と黒門越瓜（くろもんしろうり）、それと久々の登場の毛馬（けま）きゅうり。中でも南瓜は毎朝ひと周りずつ大きくなる。そして今年の毛馬きゅうりはひと味違う。なぜなら今回、ご好意で完全管理の下、まじりっ気なし、生粋の「１００％毛馬きゅうり」の種をわけて頂いた。

さて、本物のお味はいかに？それでも極苦だったら、諦めもつくか…。

【KAMAのくさ～い一日】〈おまけ〉

先日、畑から抜いたばかりの枝豆を車にたくさん積んだ。しばらく走っていると後部座席の方から何者かの羽音が…。大の虫嫌い、怖る怖る振り返り、目を疑った。なんと大量の枝豆色のカメムシが車の窓ガラスを這っているではないかっ！ピ、ピ～ンチ!!カメムシは枝豆の天敵。そう、抜いてきた枝豆の葉にカメムシが大量についていたのだ。そのあと、飛ぶもの・這うもの・隠れるものと、ビビリながらの大捕り物！

…あれから四日が経ったが、ほのかに香る車の中、今朝も三匹がフロントガラスにへばりついていた。皆さんも枝豆収穫の際は、くれぐれも「くさいヤツら」にご用心を。チャンチャン♪

植松のまち・ひと

第十六回

◇完成！植松史

戦後から高度経済成長期頃の植松の歴史やくらしについて、当時を知る地域の方々から聞き取りを行なう「植松史 聞き取りプロジェクト」（聞きプロ）は、２０１２年度からスタートした。聞きプロに先立ち２００９年には植松のまちづくりを考える会が「のんびり植松ぶらっとまっぷ」（通称うえまっぷ）を、続く２０１１年には同会の協力で、地域の方々の話をもとに昭和３０年代の植松の商店街と当時のくらしの様子を記述した「植松すこし昔のくらしまっぷ」（うえまっぷ２）を発行した。その間も、まちは日々変化し、当時実用性をもったこれらのマップも現在は「当時の今」を写し取った貴重な資料となっている。

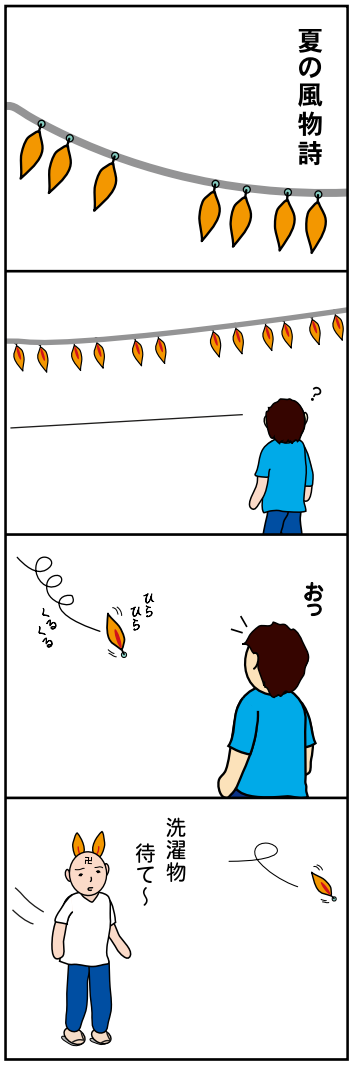
聞きプロ始動からおよそ3年が経過した２０１５年、ようやく成果物として「植松史」が完成。タイトルも『ちょっと昔の植松』と親しみ深いものになった。約７０ページに渡って、語り手、聞き手、書き手など、様ざまな人手によってバラエティ豊かに植松の歴史が伝えられている。また、巻末の資料を活用すれば、本編がより活き活きとなり、自分も当時の植松に住んでいたような感覚に近づくこともできる。

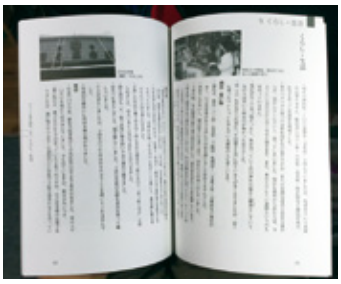
ポケットに九〇〇円を入れて、旧植田家住宅を訪れた際には、ぜひ記念に一冊「植松史」をどうぞ。

「植松のまちの様子を聞き取り、書き取った。」

マンジーくん

安富士 暁





完成した「ちょっと昔の植松」

目次

1. 渋川神社・お祭り
2. お正月
3. 商店街・お店
4. 災害
5. 鉄道・交通
6. ラジオ・テレビ
7. 学校
8. 子どものあそび
9. くらし・生活
10. 食
11. 信仰
12. 戦中・戦後
13. イベント・伝承ほか
○資料編
植松周辺の出来事
植松・龍華の人口推移
航空写真、地図

お問い合わせは、旧植田家住宅まで！

落穂拾い
―今東光の薫風―（十九）

文・伊東 健

二〇一六年に開催されることが決定した伊勢志摩サミットのニュースを聞いて、今東光の華やかな現代小説「おしゃべりな真珠」（昭和四十年七月三十一日講談社発行）のことを思い出しました。

この小説の題名にある真珠から連想されたものですが、実はこの小説に伊勢志摩は舞台として登場していません。

ただ、物語に登場する女性五人が、さまざまな職業に就く中で、航空会社に勤めるクラスメートがいるために、飛行機での移動場面が多いことが、東光の小説の中でも異彩を放っています。昭和二十六年（一九五一）に日本航空株式会社が設立され、戦後初の国内民間会社が東京―大阪―福岡間での運航を開始した十一年後には、国産旅客機YS-11の試験飛行が成功し、昭和三十九年（一九六四）には海外旅行が自由化する等、航空業界が活況を呈してきた時代背景も踏まえていると思われます。

生駒のテレビ塔の立ち並んだ山を越えると河内野を横断し、やがて泉州の堺に出た。青々とした大阪湾が望まれ、新しく造成される堺の臨海工業地帯が見えた。南住吉区から大阪上空にさしかかり、西ノ宮から方向を転ずると間もなく豊中のインターチェンジを真下にして、そのまま伊丹の空港に突込むようにして着陸した。

これは、羽田から伊丹への描写ですが、伊丹から白浜への移動の際には、次のような描写もあります。

次第に機が降下して青い海に近づいてきた。水面に接すると白い飛沫がとび散った。

「どうォ」

「ウォーターシュートね。愉快だわ。」

「これが水陸両用の好いとこ」

海上で浮かんでいるところへモーターボートが、浮いている桟橋を曳いて来た。それに乗り移ると今度はモーターボートでの桟橋に送られた。

小説の連載開始は、昭和三十八年（一九六三）十二月十八日発行号の『週刊女性』誌上でしたので、この当時には、日東航空という航空会社が、グラマン社製の水陸両用飛行艇を大阪―白浜間で定期運航していたことを現しています。

ちなみに、この路線は白浜からさらに、串本、そして志摩（的矢湾）を経由して、名古屋まで行けるという面白い水上航空路線だったのですが、残念ながら昭和三十九年十月三十日を最後に運航は終了されています。

もし、志摩までの旅を描いていれば、真珠のタイトルにもふさわしいのにと、思っていますと、なんと、なんと、この小説のタイトルは、東光が付けたものではありませんでした。

続きは、次回で。

「おしゃべりな真珠」
（昭和40.7.31 講談社発行）

写真提供：今東光資料館

【2015年8月～10月】

旧植田家住宅のご案内

今後の展示・企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験（5名限定）」
〃 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

展　示

◎7月16日（日）～9月27日（日）
夏季企画展「植田家の陶磁器」

◎10月1日（木）～10月28日（水）
通常展「大和川付け替え関連展示」

展示、イベント等のお知らせは
ホームページもご覧ください
http://kyu-uedakejutaku.jp/

企　画

（詳しくはお問い合せください）

◎8月
23日（日）連続講座2015「土（つち）③」～日乾煉瓦（ひぼしれんが）を作ろう～
29日（土）企画展関連講演会「やきものの話」（講師:谷口弘美）

◎9月
6日（日）かまどでご飯炊き体験
12日（土）講座「しおんじやま古墳と八尾の古墳時代」（講師:福田和浩氏）
20日（日）ギャラリートーク（学芸員による展示解説）

休館日カレンダー

■＝休館日　□はイベント開催日

8 August

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9 September

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

10 October

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

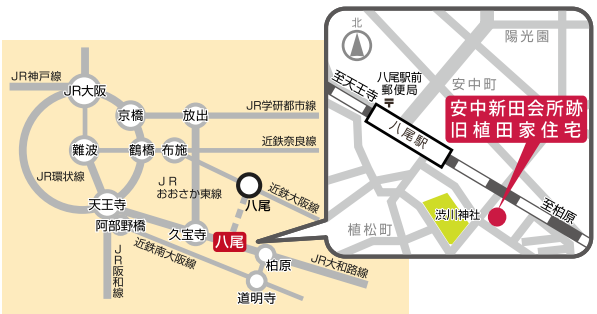
●開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

●休　館　日：火曜日・祝日の翌日・年末年始
（詳しくは休館日カレンダーをご覧ください）

●入　館　料：一般200円（団体20人以上で100円）
高校・大学生100円（団体50円）
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者
および介助者は無料

●お問い合わせ
〒581-0084 八尾市植松町1-1-25
TEL/FAX：072-992-5311
E-mail：info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分
◇近鉄大阪線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行
JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約5分

シーズクリエイトは「印刷事業」と「地域活性の仕組作り」を通じて、物心豊かな“明日”をつくります。

YAOLA

事例：no. 012

八尾ものづくりマーケット in 河内音頭まつり

2015年9月6日（日）河内音頭まつり in 久宝寺緑地に、「八尾ものづくりマーケット」を出展します。
普段、何気なく使っているものが、意外と八尾生まれだったりする。そんな「日常の中の八尾」にスポットを当てて、八尾ものづくりの魅力を発信する企画である「八尾ものづくりマーケット」。
当日は、八尾ものづくり製品の展示の他に、実際に購入できたり、体験型のワークショップも実施予定です！

NEWS　YAOLA HP http://yaola.jp/

リレーコラム

私たちと、八尾の街。

八尾の”ものづくり・風土・人々”を見つめなおす

今回はYAOLAの皆さんにお話を聞きました。

「僕たちは、今まで八尾での活動を通して、たくさんの方にお世話になってきました。その出会いの中で、八尾にはまだ知られていない魅力があることに気づきました。

- **いくつもの職人技が連携し、手間暇かけてつくられた製品**
- **ゆっくり歩けば、自分だけのお気に入りがきっと見つかる商店街**
- **大都市に隣接していながら、今も残り続けている豊かな自然**

こんな素敵な魅力があるのに、あまり知られていない現実もあり・・・。そんなものごとの裏側にある“本当の価値”を伝えていきたいと思ったのが、このYAOLAを始めたきっかけです。

活動を始めたころは、ものづくり分野が中心で、製品の展示会や、部品を利用したワークショップなどを企画・実施していました。やおのオハコも、『八尾の製品を集めてお道具箱みたいなものを作れたら面白いね』っていう冗談話から生まれました。YAOLAのスタイルはいつもこんな感じで、自分たちが、楽しく、夢中になれることからヒントを得て、活動につなげています。

最近では、商店街からお仕事の相談を頂く機会も増えてきて、例えば、『商店街イベントの中で、ものづくりのワークショップをやってもらえない？』みたいな感じで。こんな風に、ものづくりの要素を商店街に持ち込むことで何ができるか？のように、新しい可能性を考えていく活動も、最近の楽しみです。

まだまだ八尾については勉強中で、でも、将来的には『何か面白いことをやろうと思ったらYAOLAに相談しよう』みたいな存在になれればいいなと思っています。

取材協力：YAOLA（http://yaola.jp/）　※上の写真：左より：安川氏、枡谷氏、古島氏

〈本社・八尾工場〉〒581-0034　大阪府八尾市弓削町南1-18　TEL.072-948-7772　FAX.072-948-7735
〈京都支社〉TEL.075-812-3670　〈神戸支社〉[illegible]-8221　〈東京オフィス〉TEL.03-3436-0211
株式会社シーズクリエイト

安中新田会所跡 旧植田家住宅だより　発行・編集／NPO 法人 HICALI（安中新田会所跡 旧植田家住宅指定管理者）
〒581-0084　大阪府八尾市植松町 1-1-25　TEL.072-992-5311
ホームページ　http://kyu-uedakejutaku.jp　メールアドレス　info@kyu-uedakejutaku.jp
●本誌掲載の記事・写真・イラスト等の無断複写、転載を禁じます。